《巻頭言》

『椙山女学園大学看護学研究』の第14号発刊にあたり

看護系大学の増加に対して，教員の量・質の不足が問題となっています．少子高齢社会における看護の需要と質保証に向けて，看護系大学における看護教育のさらなる充実が求められ，各教育機関は「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考に，看護基礎教育の内容の見直しを図っています．本学においても，魅力ある椙山女学園大学看護学部を目指し，質の高い看護教育を行うためには，質の評価はもちろんのこと，教員ひとり一人の取り組みが重要となります．

これまでの歩みは，多様な学生への対応や臨地実習フィールドの確保などの課題に直面しながら，社会の変化とそれに伴う医療，看護の変化を踏まえて，どのような人材を育成し，どのような看護職を社会に送り出していくのか，試行錯誤しながら，１年１年を積み重ねた教員の成長の過程でもあると思います．

看護は実践の科学です．根拠に基づく看護実践は，研究に基づく実践といっても過言ではないでしょう．看護系大学が質の高い看護職を育成していくために，看護教員には看護職としての実践能力と看護学を教授する能力の双方が必要であるといわれています．これらの能力開発において，看護学研究の推進は大きな力となると考えます．ICN国際看護師協会は，看護実践の改善と看護専門職の発展における看護研究の重要性について明確に示しています．看護の発展のためには質的，量的双方からの看護研究が必須となります．コロナウイルス感染症拡大予防の影響において，先生方は研究データの収集に困難を要したことと思います．また遠隔授業という通常の対面式ではない状況より，ひとり一人の学生指導に多くの時間を費やし困難があったことと推察します．

今回の本紀要は，総説１編，研究報告２編，資料１編，その他１編の掲載となりました．多くの先生方に投稿をお願いしておりますが，掲載数の増加にはつながっておりません．研究環境の調整も含め，次年度に向けて，諸先生が研究に取り組まれ，その成果を発表できるよう，本紀要の充実と発展を願っています．

最後に，本紀要の査読，編集に携わられた先生方に感謝申し上げ巻頭の言葉とさせていただきます．

令和４年３月

看護学部長　粥川　早苗

目　次

《総説》

日本の看護学生を対象とした自己教育力に関するスコーピングレビュー……高植 幸子 他　1

《研究報告》

がんの子どもを主人公とした絵本の道徳教育への活用可能性の検討……大見 サキエ 他　15

看護学生が聴取した患者情報の臨床看護への活用可能性
　－精神看護学実習へのストレングス・マッピングシートの導入－……林 和枝 他　27

《資料》

慢性期成人老年看護学実習における技術経験の特徴
　－実習病院毎での比較－　……坂 恒彦 他　39

《その他》

新型コロナウイルス感染症に伴う介護老人保健施設実習の実践内容と課題……池俣 志帆 他　47

Contents

《Review》

Scoping Review on Self-Directed Learning Ability for Japanese Nursing Students …… Sachiko Takaue at al 1

《Report》

Examination of the possibility of using picture books with cancer children as
the main characters for moral education …… Sakie Omi at al 15

Possibility of utilizing patient information heard by nursing students for clinical nursing
-Use of "Strength Mapping Sheet" for Psychiatric Nursing Practice …… Kazue Hayashi at al 27

《Information》

Characteristics of Experience of Nursing Skills due to Differences in Training
Hospitals in Chronic Adult Geriatric Nursing Practice …… Tsunehiko Ban at al 39

《Others》

Practical contents and Issues of Geriatric Health Services Facility Practice for COVID-19
…… Shiho Ikemata at al 47